



## おもてなしのココロで 全国からの お客様を迎えた

に、鬼が辻実行委員会と吉備野工房ちみち、吉備タンチョウの会の3団体が事例発表を行いました。

吉備野工房ちみち代表の加藤せい子さん(奥坂)は、同団体が企画・実施する体

験型イベントの「みちくさ小道」を紹介。人や物といった総社にある資源を発掘し、活用してまちを元気にしたいと話しました。

吉備タンチョウの会副会長の川西孝さん(原)は、夕



市民会館のステージでは、バンドの生演奏で「総社市民憲章の歌」や「ふるさと」の合唱を披露し、参加者を歓迎した(写真上)。カミガツジプラザでは、和太鼓の演奏やダンスを披露、きびみどりのアイスクリームやオリジナルパーガーといった市の物産の販売も行われた(写真中・下)。



鬼が辻実行委員会のお頭の金池兼広さん(真壁)は、節分に豆を投げつけられる鬼の痛みが分かる温かい心をもってもらいたいと始めた鬼が辻を紹介。中・高校生をはじめ、いろいろな世代がかかわる良いイベント

に成長したとしました。活動への思いや地域の宝についての意見交換後、コーディネーターを務めた計画哲学研究所の三輪真之所長が、「地域にある宝を生かしたまちづくりをすれば、共感や支援が得られる」とまとめました。

会場では多くの市民や団体の皆さんが、全国からのお客様をおもてなしのココロで迎えようと、芸能や歓迎のステージの披露、物産の販売などをしました。



写真右から、事例発表を行った鬼が辻実行委員会のお頭の金池兼広さん、吉備タンチョウの会副会長の川西孝さん、NPO法人吉備野工房ちみち代表の加藤せい子さん。左の写真は、コーディネーターの三輪真之計画哲学研究所所長



# 希望を未来に渡す努力

## 市民憲章運動推進の全国大会

「ココロ」をつないで、古代から未来へ向けた人・まちづくりをテーマに、市民憲章運動推進全国大会の総社大会が9月25日、市民会館で開催され、「歴史と文化の伝統の上に更なる発展を積み上げ、『希望』を未来に渡す努力が必要」との大会宣言を採択しました。

人と人が心をつなぎ、明るく豊かなまちづくりとは何かを考え、今後のまちづくりを考える機会にしようとして、市民憲章運動推進第45回全国大会の総社大会は開催されました。全国34市と

市民ら約1000人が参加。俳優の長門勇さんが「今の人のココロ、けーでえーんか日本のココロ」と題して記念講演をしたほか、「呼び起こせ 地域に息づく宝とココロ」をテーマ

「今の人のココロ、けーでえーんか日本のココロ」と題した記念講演を行った俳優の長門勇さん。ステージを所狭しと動き回り、殺陣も披露し、「心の欠けている人にはならないで」と、ユーモラスな語り口で参加者に訴えた

